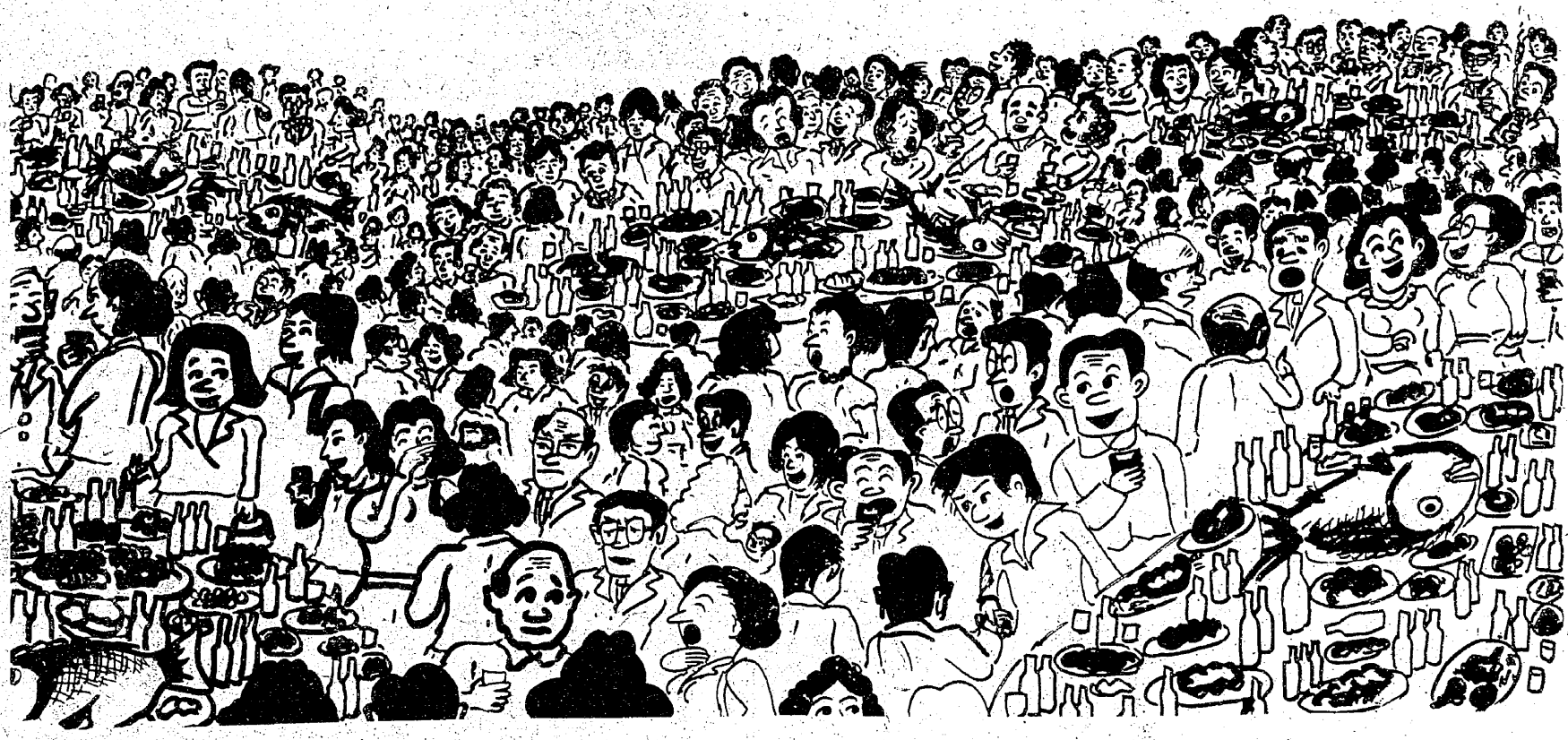
歓迎会

1976～11/2(土)
於 理監 石亭
大宴会場。

歓迎 三池労組
停年退職者
全関西不知火会



この絵は、現在「大阪市大淀区本庄川崎町三丁目五番地」の大阪高速印刷株式会社で働いていられる、宮浦鉱退職者の緒方進さんが描いてよこしてくださったものです。このほかにもたくさんの作品がありますが、心からお礼を申し上げます。緒方さん、お体をご大切にがんばってください。

退職記念東京旅行感想記

不知火会の皆さん有難う御座居ました

退職者　谷口光典

この度、私達退職記念旅行につきまして、松岡さんを始め合志さん、藤末さん、各指導部の班長さん方には大変お世話になりました。

何回となく班長会議を開く中で国鉄のスト突入のニュースで、予定変更ということで船で行くようになり、中には船だと参加者が少くなるんじゃないか、という心配がありましたが、最終的には合志さん始め八十一名の参加ということで、われわれ旅行団は九月三十日午後零時三十分組合本部集合。

バス三台に乗車し、渋田書記長の激励を受け全員元気で大牟田を出発致しました。

新門司港に無事到着し乗船。船の中では、それぞれ四～五名ずつ船室に入り、第一夜を楽しく過ごしました。

十月一日大阪港に到着。「船の旅はほんとうに良かったなー」、と言う声が全員でした。

大阪港より両備バスに乗車し、奈良大仏殿を始め京都観光を終り、第二夜をホテル東園で宿泊。

十月二日、残りの京都の旅を清水寺―八坂神社へのお詣り、万博エキスポランドに行き、ここでのエピソードを一言。

何人かの方たちが初めてジェットコースターに乗り、あのスピードとスリルに、ある主婦会の方の話しを聞き、その日は一日中笑い声でにぎわいました。

夜は、大阪千里石亭に到着。関西不知火会の仲間たちが午後三時頃より次つぎと石亭にこられ、お互いが顔を見るたびに「おーっ、元気じゃったかん」、と手と手でがっちりと握手をし、ただ言葉もなく感激ひとしおでした。

全員集合のあと、力強い炭掘る仲間を歌ってカンパイ後交流となり、みんな歌ったり踊ったりでにぎあいました。最後に全員で炭坑節を踊り、「がんばろう」三唱で閉会となりました。大阪の地においても、三池の仲間がみんな元気で三池の炎をもやしていることに対し胸うたれました。

十月三日東京へ。午後一時三十分東京駅着、総評会館へ行きました。

総評では阿具根先生をはじめ、灰原元書記長や関東不知火会の皆さん方の拍手を受け、会場に入り交流会となりました。

ここでも不知火会の仲間と握手し、何年ぶりか逢った友との語らいのうちに交流は終わり、午後三時三十分より自由行動になりました。

夜は、根津上海楼に宿泊。

十月四日上野発、日光行きの東武バスにて中禅寺湖をはじめ東照宮参拝。鬼怒川温泉水明館にて最後の宿泊ということで、旅行団全員で歌ったり踊ったりで、大変にぎやかに過ごしました。

十月五日鬼怒川をあとに浅草に行き、浅草観音・仲見世を見学。靖国神社―皇居と長い旅行が終り、午後四時四十五分のはやぶさ（特急）にて東京をあとに。

東京駅では灰原さん、蒲池さん、蓮尾さんたちが見送りにきて下さいまして、誠に有難うございました。

十月六日午前十時十六分大牟田駅着。駅頭に本部の役員の方、各指導部長さん方のお出迎えを受けて、駅頭で渋田書記長の歓迎の挨拶を受け、一人の事故もなく解散しました。

今回の六泊七日の旅行で、さすがに三池労組員、主婦会員は規律ある行動をとってもらったことに対し、われわれ責任者としてはほんとうに感謝致しております。旅行団の皆さん方は、一生の思い出に残る旅行だったと思います。

関東・関西の不知火会の皆さんぼんとうに有難うございました。元気で頑張って下さい。

×

筆者は、宮浦関係の責任者として、お世話に当たられた方です。ご苦労さんでした。

また同じ旅行に、夫と同伴参加なさった野田アヤ子さん（宮浦関係）からもよろこびの手記をいただきましたが、本紙六面の〝主婦〟の欄に紹介いたしました。

おわび

右の文のほかに、高椋竜生さんからも詩や俳句のご投稿をいただいておりますが、紙面のつごうからやむを得ず次号へ紹介させていただきます。――編集部

自分にできることから

京都大学生　林一郎

三池労組の皆さん、お変りありませんか。

京都はこの二、三日、朝晩の冷え込みがきびしく、東山連峰あたりの木々が急に色づきはじめました。

先日の講演会（京都大学資源自主ゼミナールで行われ、映画〝三池闘争〟上映後、門西安全センターの豊田正義さんと、国労新幹線支部の森村敏子さんが講演。前者は「三池闘争と命を守る闘い」、後者は「職場闘争と学生」がテーマだった）は、聴衆の皆さんも真剣に聞いてくれ、閉会の時に拍手を聞いてホッとしました。これからもできるだけ講演会などの企画を続けて、一見平穏な日常生活を営むわれわれ学生の目に届きにくい実実というものを広げ合うことによって、今後自分が社会とどのようなかかわりあいをして行くのか、どのような生き方をしていくべきか、を考えあっていこうと思います。

何かをしようとすると、自己の力量不足がよくわかり、何をしたらよいか、正直言ってよくわからないのですが、できるだけ多くの人と話し合って知恵を寄せ集め、ささやかではあっても、今の自分にできることを一つひとつやっていくしかない気がしています。そのため、皆さんのように現場で闘っていられる人びとから大いに学んで行きたい、と考えます。

現在の大学の腐敗ぶりにはさまざまな問題があり、私自身まだ十分にとらえ得ていませんが、ただ今回のようなささやかな企画一つに対しても、われわれの学科の主任教授は露骨にいやな顔をし、する必要もない警戒をし、なかなか愉快でした。

彼らは自分と社会との関連などかえりみれなくなり、何の反省もなく毎年同じことをしながら、学生が少しでもかわったことをしようとするとびくびくする。自分の地位と肩書だけにしがみついて生きていこうとする情けない教授がいることを、京大にきて知りました。

三池闘争とともに、あの大災害が、そのほか各地の公害が、過去のこととして葬り去られようとしている現在はいっそう、全く同じ危険な状態におかれていることを訴える一方、とくに学生運動も低迷期といわれている今、六〇年安保を含め三池闘争のような先進的な、すばらしい闘いがあったということを再び銘記するとともに、ロッキードをはじめ、韓国情勢の深刻さが明らかになった今、さらに天皇在位五十年式典を迎えて、体制側のまき返し、各大学の反動化がおしすすめられている現在こそ、まさに三池の教訓・体験を生かし、あらたな運動をいかに形づくってゆくべきか、が問われているのだと考えます。

われわれの不勉強、不十分さに対する皆様のご批判、ご助言を大いにうけて、皆様とともに前進して行きたいと思います。

×

林さんのお住まいは「京都市左京区浄土寺西田町一〇〇―二〇、市村様方」です。尊い連帯に、心から感謝します。がんばってまいりましょう。